月刊「神戸っ子」昭和39年2月10日印刷通巻35号　昭和39年2月10日発行　毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

2月号

monthly magazine kobekko february 1964 no, 35

日野
ブリスカ
神戸日野モーター
TEL (4 5771～5
Florist
SORAKUYEN
合資
合社
草楽園
■ 大型バス・トラックのご用命は
兵庫日野ジーゼル㈱ TEL ④7651

これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です

カット・中西　勝（二紀会）

神戸店＝三宮・神戸国際会館 Tel.22－0062
大阪店＝堂島・新大ビル Tel.361－0220

御木本真珠店 本店＝東京銀座四丁目

ミキモトパールは優雅な宝石です

神戸と女性

丸山みどり・尾上貴子（宝塚歌劇団月組）－写真左より－

若い人のエネルギーがあふれるボーリング場で、楽屋入り前のひとときに心よい汗をぬぐう。丸山さんは丸山中学を、尾上さんは山手学園出身の神戸っ子。そろって日本舞踊が好きと舞台に大きな夢を描いています。ボーリングを楽しむときは舞台の疲れもふっ飛ぶそうです。

（神戸新聞会館ボーリングセンターで）

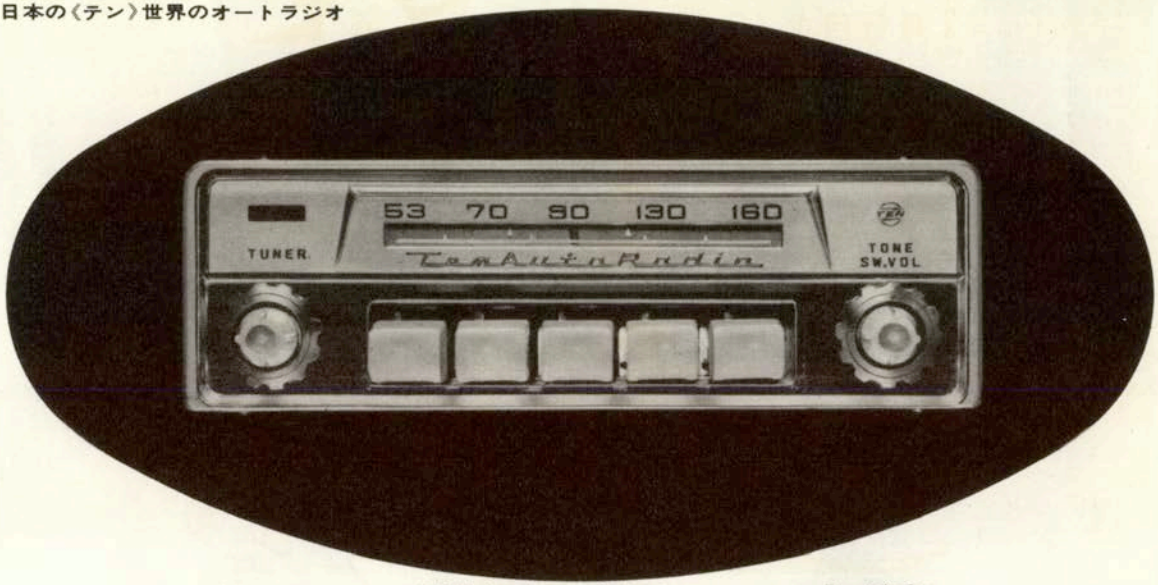
確信をもって
タジマの目が選んだ
世界の宝石の名品！

Tajima
宝飾店 タジマ
元町2・TEL③0387・2552

ソーナ・ミヤ(インド) 写真左
ジャニス・マッケイガン(カナダ)
— 神戸ポートタワーで —

山と海の神戸の街がポートタワーの展望台から望むと一層あざやかです。ソーナさんはステラ・マリスの高校1年生、神戸生れの可愛いい神戸っ子。ジャニスさんはカナディアン・アカデミーの高校1年生で、寒いカナダから神戸へ来た清楚なお嬢さんです。2人は38年度の花のプリンセスで、「港祭りの国際行列に参加できたのがとても嬉しかった」と云うことです。

日本の〈テン〉世界のオートラジオ



かるい〈選局〉美しい〈音質〉

指先でかるく選局してくださいたちまち、やわらかなリズムが車内をつつみます。《テン》ならではの音質――神経のつかれをいやします。高速運転中もラクに操作できるプッシュボタン式どんな高級車にもピッタリの、すばらしいデザインです。世界のオートラジオ《テン》を、あなたのお車にゼヒ！

●美しい音質
ゆたかな音量とやわらかな音質高性能のパワートランジスタとHi―Fi設計で音の美しさは抜群

●鋭い感度
ビルの谷間でも、遠く離れた山間でも感度を落さない強力AVC回路方式の採用、感度は最高

●強いメカニズム
振動やショックに強い設計、オールプリント配線で、凸凹道でも平気です。ビクともしません

【AR―701型】

■一式現金正価……一八、一〇〇円（取付費別）
■本体……一六、〇〇〇円
■標準ロックアンテナ〈AK―III〉……一、四〇〇円
■取付金具……四〇〇～七〇〇円

テン
オートラジオ

神戸工業

2月号目次

SECOND COVER　絵・中西　勝　1
□グラビヤ／神戸と女性・丸山みどり・尾上貴子　3
ソーナ・ミヤ／ジャニス・マッケィガン　5
＊わたしの意見／滝川勝二　9
随想三題／花祭り点々・安水稔和　10
遠い道・今岡頌子／戦友・鴨居　玲　11
連載随想第18回／**人間ドック・白川　渥**　14
れんさい随想最終回／**神戸のこと手当り次第・淀川長治**　16
連載随想第７回／**孫・阪本　勝**　18
神戸っ子放談／深水惣吉　21
経済ポケット・ジャーナル　24
連載第12回／神戸とエトランゼ・**洋菓子パン界の名門**　27
ハリー・フロインドリーブ氏を訪ねて／**陳　舜臣**
香港情報／小川丑郎　33
35　季節のモード／福富芳美
41　暮しのアクセサリー⑪／矢野　坦
43　特集座談会／KOBE洋菓子天国
50　洋菓子クイズ／KOBEの洋菓子をプレゼント！
52　神戸遊戯誌６／ゴルフ⑥／青木重雄
54　神戸うまいもん巡礼No.18／赤尾兜子
56　紳士入門⑫／冠婚葬祭紳士・竹田洋太郎
58　ポケット・ジャーナル
60　KOBEKKO SHOPPING GUIDE
69　連載第10回／**神戸夫人・武田繁太郎**
69　神戸の催物ごあんない
70　神戸っ子ごあんない・編集後記
72　□グラビヤ／灘五郷名醸の誕生・カメラ／堀内初太郎

表紙・小磯良平／カメラ・米田昌弘・米田定蔵／デザイン・橘　正三

1964
TOKYO OLYMPIC

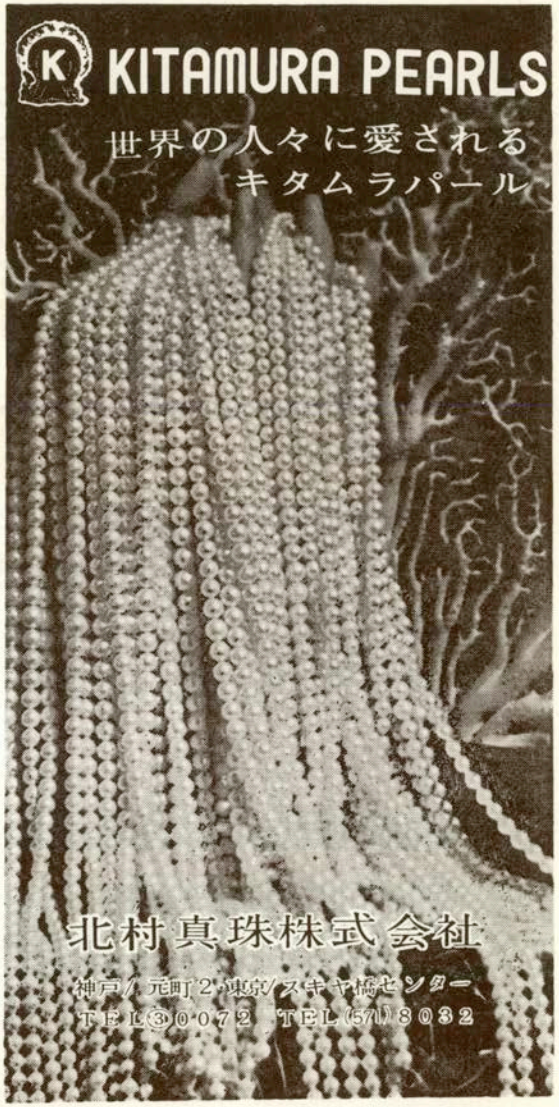
Young Young
&
「Young MAC」

若い人
若い生命
若い情熱
若人の服飾
ヤング・マック

男の服飾

マック

三宮本店　神戸センター街
TEL ㊴ 0895
トアロード店　センター街西口
TEL ㊴ 0896
新開地店　新開地本通り
TEL ⑤ 7688
姫路店　姫路駅デパート
TEL ㉓ 1261



＊わたしの意見

総合的な町づくりを期待

滝川勝二（兵庫トヨタ自動車KK社長）

―交通とか道路問題にはご関心が深いと思いますが―

「大変な問題ですね。今年にはいって一月末現在、交通事故死が日本最高を記録しているんですよ。困った事ですね。私も公安委員会の須磨地区の会長と県の副会長として対策に参画しているんで、先程も地元の方が見えて『須磨の検問所附近が危険だから対策を考えてほしい』と陳情があったんだが、対策として、効果があるのは巡査さんの数を増やすと言った方法もあるが、結局、交通道徳の問題をもっと充分に検討して、道徳心を高めることが一番の解決策なんですよ」

―現在、神戸市社会福祉の善意銀行の理事長をなさっていらっしゃる訳ですが―

「善意銀行も共同募金も社会福祉の仕事として変わりはないのだが、善意銀行のいいところは、奉仕した結果が具体的に判るということです。奉仕する人にすれば結果が判る方がそこに感激がある訳ですよ。

善意を直結させようというのが善意銀行のねらいです。それだけに手間はかかりますよ。いまの善意銀行はまだ、役所仕事ですからこれが本当に民間の自発的なもので自主性がもてればと思うし、その方向に育てて行きたいものですよ。散髪屋さんとか按摩さんの奉仕とか特技があるからお手伝いしましょうといろいろな預託を受けていますが、本筋としては、施設の希望を調査して善意の人を探すというのが理想的なんだがね」

―近く、長田の大橋地区の開発計画が本格的に実現の運びになって来ましたが―

「これは、地元の方が協力して努力した成果と言えますが、市側の忍耐と愛情に敬意を表していいと思いますね。ビルを建設するために、まつわるいろいろな条件を克服してよく頑張られましたよ。大橋地区を副都心にしようという構想ですが、まず第一歩は踏み出した訳だ。

最近、工場アパートなどの建設を考えていらっしゃるが大橋地区に良い影響を与えるでしょう。このように、総合的な町づくりが行なわれてこそ繁栄と結びつくと思う」

□随想三題□

花祭り点々

安水稔和（詩人）

夕方。五時。

バスを降りると、もうまっくらだ。道ばたに立っている女の子にきく。

「花宿はどこ」

よくわからないらしい。

「今晩お祭りのある家は」

こんどはわかった。

どんどん小川に沿って歩く。あたりは山の影と川音ばかり。時どきぽつんと灯があらわれる。一番かみの家ときいた。立ちどまって耳すます。川音ばかり。歩く。立ちどまって、耳すます。川音ばかり。橋を渡る。ずいぶんもう歩いたようで。小さな橋また渡って、立ちどまって、耳すます。川音ばかり。その川音の奥のほうから、まるで地虫のように、鳴くもの。いっそう耳をすますと、きこえている。きこえてきた。あの音が。笛の音。太鼓。

テーヘロ　トホヘ
ターフレ　トホヘ……

夜。十時。

招かれて席につく。朱塗りの円いお膳にわんが四つ伏せてある。

「どうぞ」

湯のみ茶わんに一升徳利から酒が満たされる。

「どうぞ」

おひつから米飯が盛られる。

「どうぞ」

手桶から汁が盛られる。どろりとした汁。味噌の匂いが溢れる。

「どうぞ」

鍋から煮しめが盛られる。形のなくなるまで煮られたもの。

「どうぞ。あけてくだされ」

箸をつける。うまい。実にうまい

あけはなった部屋のなかを夜の風が遠慮なく吹きとおる。たえまなくつづく笛の音。太鼓。

テーヘロ　トホヘ
ターフレ　トホヘ……

夜中。一時。

人々がいろめきたつ。五、六才の男の子が四人、かけだしてきて輪をつくって踊りだす。花笠かざして踊りだす。人々は子供たちのまわりで輪をつくって、ともに踊る。

子供の額に汗が流れる。子供の頬が赤くほてりだす。子供の唇が開いて白い息をはげしく吐きだす子供の足もとがふらつく。人々は子供の汗をふいてやる。子供の手をとって腕とって助ける。みかんをむいて子供の口にいれる。大声で子供をはげます。

「よう舞うた。よう舞うた。」

踊りの輪が急激にまわりだす。笛太鼓も乱調子。悲しいまでに声はりあげて人々は踊る。踊り狂う「花の舞い」が人々を「乱れ」にそして「狂い」にひきずる。

テーヘロ　トホヘ
ターフレ　トホヘ……

次の日の午後。二時。

土間中央の釜の湯がふりまかれる。人々はわっと逃げる。釜がかえされる。鬼が出る。獅子がでるひとしきり荒れくるった獅子が名残りおしげに引きさがると、宮人たちによって「ひいなおろし」「たなおろし」となり、そのときには丸一日踊り狂った人々はもう嘘のようにいなくなっている。

土間を囲っていた板がこいが、もうはずされていく。金づちの音奥の間では種々の面が二つ箱に収められていく。面は一年のねむりにつくのだ。

山国の日は短い。もう谷間はかげってくらい。谷底の道を神体が二人の男にかつがれて帰っていくそれが花宿の西陽のあたる庭から豆つぶのようにみえている。神体

のうしろから、太鼓が行く。笛が行く。そして、二人、三人、子供たちが踊るようについていく。

取りかたづけの音のせわしさの底を、まるで思い出のように、かすかに、かすかに、笛がきこえる太鼓がきこえている。

テーヘロ　トホヘ
ターフレ　トホヘ……

すこしずつ、遠くへ。遠くへ。今、祭りが終るのだ。

遠い道

今岡頌子（洋舞家）

幕が舞台の床についた一瞬、ホッとする。何カ月もの間、ああでもない、こうでもない、と大騒ぎしたのはまるで夢のようで、アッというまに幕がおりてしまう。「お疲れさま」と楽屋に入ると、子供達や女学生達の騒々しいこと。暑い夏中を一生懸命にレッスンしたことはとっくに忘れて、早や新しい舞台の話に夢中になっている。（このなかにきっと踊りが好きで好きでという人が出てくるにちがいない）とただわけもなく嬉しくなってしまう。

そんなひとときが過ぎると広い楽屋には、私達四、五人のスタッフだけ。あとかたづけを手伝っていただきながら「全体の調子はどうだったかしら」「あそこはこうした方が」と話し合いながら――今年はこうだったから来年は――とはや来年の相談。毎夏に、神戸新聞社主催の洋舞合同公演に参加するのが習わしになってから、こういう風景をくり返してきました。

それが今年のお正月は四、五人の研究生から「こういうのを出してみたい」「こんな練習をしてはどうですか」「踊りと演劇の関連は」と雑談に出てくるのです。

だれにでもわかりやすく、日本伝統芸術の情趣を舞台にただよわせながら、たんに踊り上手というだけでなく、そこに（何か）を加えたいと願っている私たちです。日本伝統の芸術、外国伝統のもの、その国々によって素晴らしい民族の生命を感じます。古典を正しく理解したり研究することは新しい創造への基礎ですから勿論大切なことです。しかしそれをお手本どおり丸写しすることなく現代の息吹きを吹込みたいのです。現在古典といわれているものでも民族芸術として古くから伝わっているものを、また新しい素材をいろいろな形式でその時代時代の感覚にあわせて承け継いできたのではないでしょうか……。

遠くて険しい道ですが、いつも手をひいたりあとおしをして下さるスタッフの皆さん、その時々にいろいろな協力を心よくして下さる方々、暑さ寒さのなかを懸命にはげんでくれる研究所の人達。私はほんとに幸わせだと、その度に感謝しているのです。

戦士達

鴨居玲（洋画家）

先日仲間の貝原、西村、上西君それに美術館の菅瀬君、そして我が師匠洋太郎先生とある会合で一緒になった。その時、菅瀬さんが人間の智能と言うものは七才位までの蛋白の摂取量で決るものであると言う説を出された。特殊の事情で小生、生れてから戦争がすむまで油揚げの他は一切肉類を口にしなかったのであるが、お愛想でつい「いや―それで私は頭が悪いんですね……」と言うと、「然し例外はあるんですね。」とでも言うかと思いの外、矢張り俺の学説は正しかったとばかりに冷い微笑を彼は洩らしなさった。どうも批評家と言うものは客観的な冷い笑いをしていかん。さて私が言いたい

のは此の事ではない。

その会合で種々の世にも美しい議題が次々と解決される頃お互いにアルコールが廻って来たのである。そうなると美しい議題はそっちのけにして色々の話題が出た。見廻すと、小生と菅瀬さん以外は戦場の経験者である。

蛋白不足の脳でも気の利いた鋭いという質問でもして一寸はましな所を見せてやろうとしたのが禍いのもと、質問の要所次の通りである。即ち実際に敵と遭遇して、死ぬか生きるかの場面におかれた時の人間の心理状態についてである。この辺までは和気アイアイたるものであったがその中誰かが俺達は捕虜を殺さされた事があると妙に力んで喋ったのが蛋白不足の頭にコチンと来た。戦場で人を殺す、また平和なこの一般社会で人を殺す、人間が人間を同じく殺すというのに特に後者の場合のみ通常非常な罪悪感におそわれる。この違いは何故であろうか。あるいは組織の中で個人が如何に変化するかという事等を知りたく、私は非常に理性的に質問したつもりであったがアルコールの故かそうでもなかったのであろう。かつての戦士達は一斉にカーッといきり立ってわめき出した。その中に洋太郎先生が、「お前ら戦争に出た事もない奴に、分るかァ!! ダット・レ!!」と雷のような声を出したかと思うと今度は実に悲愴な声で「俺はなァ……参謀本部にいてなァ……そして俺の書いた書類で多勢の戦友が死んだのだ……（間を置いて再び）ダット・レ!!」

痩身痩軀の私は、この頃中年肥りで一まわり大きくなった。先生ととっ組み合いをするわけにもゆかず唯一人の味方と思っていた例の蛋白氏は冷い微笑だけで助けてくれない。目をあげると平常は実に柔和で心優しい優雅な絵描きである彼等がキットなって鬼神もこれを避くといった目付で私を睨みつけている。これはいけない。くやしいが私は心の中でつぶやく事にした。「だいたいだ、オメエ達はだ（心の中だから勿論敬称略である。）どうして軍隊の話になるや途端にこうも共通して変化するんだろう。不思議なオジサン達だよ全く。それにだョ、洋太郎だってだナ、私に「ダット・レ!!」と言った途端に死んだ戦友の事を思い出して心が痛んだにすぎないのではなかろうか？（再び註、心の中の事であるから敬称略である）それに何時も本当に心を痛めてりゃ仏門にでも入るとか、何か外の事とかをすべきだよ、それにだ、貝原君は戦傷を負った歴戦の戦士であるから一寸具合が悪いがだ、このオジサン達の軍隊でした事と言えば軍人勅諭の暗記にすぐれた能力を発揮したに過ぎない位で決して有能な戦士ではないョ、まして充分な蛋白質の脳力を持っていながら積極的に戦争反対を称える勇気もなし、さりとて心からの戦争協力者でもない。無知ではあったろうが勇敢に闘い勇敢に死んだ熊さん八っつぁんの方が私はやはり立派だと思うんだが……。」

そこへ会合におくれた中西君が入って来た。その場の空気で私の不利をさとった彼はとっさに私を救おうと前後の事情も知らないままに叫んだ。「ワイは戦争反対や!!」そして歌い出した。「カンキリキーのカンキリキー……。」ああ又しても簡単に戦争反対を叫ぶ。しかし最も叫ばねばならない戦争中に此の中で誰もそれを叫んでいない。しかし待てよ、さっきから彼等ばかり攻めていたが私だって果してその中にいたらと思うと急に情けなくなった。ええ、私も歌うか、何時の間にか知らないが中西君の妙な歌を覚えて了った。

「カンキリキー、カンキリキーノ
カンキリキーノ カンキリキー
アメエエ……」

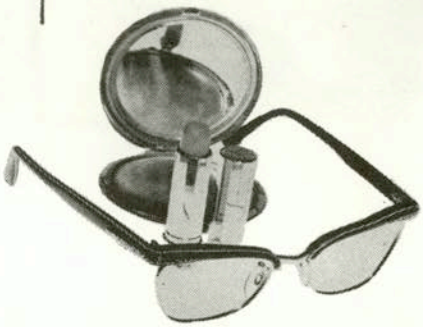
全く妙な歌だな、これは……。

O-SHIBATA

㊎ 柴田音吉洋服店

神戸・元町通４丁目　神 戸 ４－0693
大阪・高麗橋２丁目　大阪 231－2106

第三の美容



EYEGLASSES CRATE THE THIRD BEAUTY

ハイファッション のめがね

神戸眼鏡院

元町３・電③3112－3・㊴1443
③ 0551　（貿易部）

〈神戸クーポン歓迎〉